

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が、かなり落ち着いているため、師走の忙しい状況が戻り、来客数も上向しているが、新型コロナウイルス発生前には程遠く、今の景気は良くも悪くもない状態である。しかし、前年と比較すると確実に改善している。
	◎	一般小売店〔精肉〕（店員）	単価の動き	・高級食材の売行きが好調である。
	◎	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・年末が近づくとつれ、客の来客数が大幅に増え始め、前年と大きく変化している。新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し始めていることから、家族連れが多くみられるようになり、売上増加を期待している。
	◎	住関連専門店（従業員）	来客数の動き	・冬になると需要が高まる、保温性のある寝具を求めて来客数も上々である。
	◎	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いており、来客数及び予約も増えている。客単価も高くなっており、客の笑顔が多くなっている。
	◎	観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、自粛で控えていた旅行も少しずつ増えている。
	◎	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宴会需要はほぼなくなっているが、それ以外は新型コロナウイルス発生前の水準に戻っている。
	◎	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス新変異株の急増で、不安があるものの昼夜を問わず活気が戻り、久しぶりの年末の景気が戻っている。
	◎	通信会社（営業担当）	それ以外	・繁華街やショッピングセンター等での人のにぎわいが非常に大きく、新型コロナウイルス発生前に戻ってきたような景気の良さを感じている。
	◎	美容室（経営者）	来客数の動き	・9～10月は新型コロナウイルスの影響で、深刻な状況になったが、12月は新型コロナウイルスを余りにすることなく、年末ということもあり来客がある。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスは収束傾向にあるため、引き続き景気は上向していく。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数減少に伴い、商店街の活気を取り戻しつつある。まだ、新型コロナウイルス発生前の7割程度であるが、客の購買も徐々に積極的になっている。
	○	商店街（代表者）	単価の動き	・時期的なものであるが、喪中や年賀状、キャンペーン、名入れサービス等、年末商戦で景気は良くなっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・景気は余り悪くないとメディアの報道があるが、地方の商店街は依然として活気を取り戻せない。小売店では、新型コロナウイルスの感染が収束しても厳しい状況が続くと判断をしている人が多い。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・年末年始を控え、客の様子が慌ただしくなり、正月用品の買物が少しずつ増えている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・コロナ禍でも、当県では新型コロナウイルスの新規感染者数が1か月以上出ない日が続き、県民に安心感が出て、街のにぎわいも師走と重なり、随分と良くなっている。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・やっど地物野菜が出回り、野菜の単価が下がり、購入しやすくなっている。単価が高い果物は、ぼちぼち動き始め、3か月前とは随分変わっている。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・仲卸では、フグも取り扱っているが、フグの売行きが良くなっている。人手がなくて対応できないため、数日前から新規の注文は断っている状態である。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・12月は、退職者に贈る花やお供え、正月用などで、2～3か月前より月末は来客数が多くなっている。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・目的買いの客だけではなく、回遊する客や旅行者が増えている。

○	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・県内の感染者が発生していないことから、来客数は徐々に増加傾向にある。前年の第3波の影響があった時期には達成しているが、新型コロナウイルス発生前の水準までは達していない。観光客は週末を中心に回復傾向にあるが、来店への伸びに比べ、売上の伸びが鈍いことが課題である。
○	百貨店（経理担当）	競争相手の様子	・市内大型店4店の売上高見通しは、98.3%で9月の92.3%から6%の改善がみられる。衣料品全般では引き続き回復傾向が続いており、特に飲食においては前年比104%と改善の兆しがみられる。しかし、婦人雑貨では、12月初旬の暖冬の影響で、売上高が伸び悩んでいる。
○	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少で、平日、金土日共に来客数が増加し、開店時から午前重視の来店傾向が午後まで伸びているが、ギフトセンターと併設の持ち帰りコーナーでは感染防止や混雑回避により来場は戻っていない。また、送料節約のため、お歳暮商品の自宅届や売場購入での持ち帰りが目立っている。一方、反動でオンライン受注やサテライトショップ、ギフトショップでの購入はやや落ち着いているが、外出自粛は継続している。しかし、帰省や県内外旅行者の来店は目立っている。
○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの沈静化により、仕事もプライベートも行動的になっている。
○	コンビニ（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少と自粛への反動から、人の動きは活発になっている。コンビニエンスストアの利用は朝夕の通勤通学が通常に戻り、在宅勤務でのコロナ禍特需の購買は減少しているものの、おにぎり、ファーストフード、ドリンク等の商品の販売額は前年を上回っている。一方、酒類や総菜の家飲み用商品の販売は、逆に新型コロナウイルス発生前に戻り、減少している。
○	コンビニ（店長）	お客様の様子	・駅周辺は、帰省客や旅行者、出張等人流が多くなっており、油断している人が増加している。
○	コンビニ（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により、全体として活気が出ている。
○	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に伴い、人流が良くなっており、景気が少し上向いている。
○	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・前年に冬物の購入を控えていた買物客が多く来店している。
○	家電量販店（店長）	お客様の様子	・前年のプレミアム付商品券等景気対策の影響はあるが、それを除けば売上は伸長しており、客の来客数も確実に回復傾向にある。
○	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車の受注は順調に確保しているが、メーカーの生産が回復していないため、売上につながっていない。最悪の状況は脱したが、まだまだ通常の状態には戻っていない。
○	その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	販売量の動き	・来客数を前年と比較すると変わらないが、12月はお歳暮の需要もあり、1人当たりの購入量が、若干前年より増加している。
○	その他専門店 [書籍] (副店長)	販売量の動き	・中心地にあった商業施設の閉館以降、人流が変化し、売上増加につながっている。
○	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	来客数の動き	・8～10月にかけては、豪雨被害や核店舗の改装休業、また、前年の人気アニメやGo To Travelキャンペーンの反動と併せて厳しい数字だった点を考慮すると、12月は現時点では96%、前々年比でも96%と同水準になっている。ゲームセンターや雑貨店舗等は、前年が人気アニメに乗じた異常値に近い好調推移だったため、見極めるのは難しいものの、中核になる店舗も改装による休業が終わり、全館的に客足が戻っている。

○	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が収束し、来場が回復している。緊急事態宣言下の3か月前と比べると回復傾向にあるが、新型コロナウイルス発生前には、まだ大きく開きがある。
○	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・飲食店では、市内の予約客は余りなかったが、修学旅行が駆け込みで入っていた。今後は、忘年会や新年会の予約になるが、動きがない。
○	その他飲食の動向を把握できる者 [酒卸売] (経理)	販売量の動き	・10月以降の新型コロナウイルスの新規感染者数の減少で酒類販売量は増加しており、景気は上向いている。12月でも新型コロナウイルス発生前と比較すると1割ほどの減収までに回復している。
○	旅行代理店 (職員)	販売量の動き	・緊急事態宣言中の9月よりは、来客数や販売量は増加しているが、ここ1週間は新型コロナウイルス新変異株の報道もあり、心理的にも遠方の旅行を控えている状態である。
○	通信会社 (企画担当)	販売量の動き	・光回線提供エリアの拡大により、販売件数が増加している。
○	美容室 (店長)	来客数の動き	・3か月前と比較すると良くなっているが、このまま景気が上向くとは考えられない。
○	その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス] (管理担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減しており、客からのサービスキャンセル数も比例して減少傾向である。
○	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・今年度補正予算案閣議決定で、住宅ローン減税延長や住宅資金の贈与税非課税枠の処置延長等が影響し、客の動きも良くなっている。
□	商店街 (代表者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き始めて安心していただるところに、新型コロナウイルス新変異株が発生しており、警戒心から遠出をしなくなり、衣類を必要としないため購入につながっていない。
□	商店街 (代表者)	来客数の動き	・来客数は徐々に増加しているが、客単価が20～25%減少している。
□	一般小売店 [茶] (販売・事務)	販売量の動き	・寒くなってきたこともあり、徐々に売上は上向きになっている。例年であれば、この時期は贈答品の注文があるが、新型コロナウイルスの発生以降の贈答品売上は減少している。接触を避けるために、お歳暮のやり取りをやめている客もいる。
□	百貨店 (業務担当)	お客様の様子	・年末に向かい新型コロナウイルスの感染が沈静化している間に、必要な買物を済ませておきたいと考える客が多い。新型コロナウイルス新変異株の報道で、今後、再度感染が拡大することを見越したまとめ買いがみられ、決して足元の消費が戻っているわけではない。
□	スーパー (店長)	販売量の動き	・全体数値には大きな変動はないが、ライン別数値では、衣料品や住余関連商材が上昇し、食品関連商材が減少傾向となっている。
□	スーパー (店長)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向で推移しており、自治体の規制緩和もされているものの、来客数は増加傾向にはない。生活防衛意識の高まりも見受けられ、販売点数の推移や客単価が下落している。
□	スーパー (企画担当)	来客数の動き	・コロナ禍が、一旦落ち着いていることから、消費者動向に変化がみられ、外食やイベントへ流れている。内食傾向からの転換があるものの、食品スーパーマーケットは特に変化がない状況である。
□	スーパー (経理担当)	販売量の動き	・12月であるが寒い日が少なく、鍋物材料等の冬型商材の売行きが余り芳しくない。新型コロナウイルスの影響もあり、前年維持がやっとの状態である。

□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・コロナ禍が始まって以来の、来客数の減少やまとめ買いによる客単価上昇傾向は相変わらずである。規制が緩和されたものの、期待していたほど売上に反映されず、消費マインドの回復を感じられない。クリスマスケーキ等の予約商材についても不満足な結果である。
□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・クリスマス商戦及びお歳暮ギフト等の予約が芳しくない。
□	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・10月の緊急事態宣言解除から夕方から夜にかけての来客数が減少している。原因は、街中へ食事に出掛けることが多くなり、郊外にある飲食店へ足を運ぶことが減少しているためである。
□	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・来店客は、3か月前と比較すると増加しているが、売出しのため客単価が上がらない。また、売出し商品を多く購入することはなく、吟味して最小限に抑える傾向がある。
□	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・12月前半は来店客が少ない状況であったが、後半はかなり増加している。おせちは、前年より若干減少しているが、それなりの売上があり、景気はまずまずである。
□	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・県内の新型コロナウイルスの新規感染者数はゼロが続いているため、客の動きが出ており、今までは家族旅行だけだったが、少しずつグループや年配者がみられるようになってきている。まだ一般団体客は少ないが、春以降の予約は入っているため、先の見通しは明るい。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・当市では新規感染者数が少ない状態で推移しており、人の流れは戻っているが、新型コロナウイルス発生前と比較すると消費に対する考え方に変化があり、以前の状態に戻ることは、かなり厳しい状況である。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・客が11～12月と増加しており、徐々に良くなると期待している。
□	通信会社（統括者）	販売量の動き	・携帯電話の販売状況は、前年並みからやや減少傾向である。各電話会社の格安プランが好調なこともあり、ショップへの来店客が若干減少傾向である。
□	ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・今年に入り、過去最高の入場者を記録した月が多かったが、平日の入場者割合が増えたことで、客単価はやや下がっている。
□	競馬場（職員）	来客数の動き	・コロナ禍の状況が一定であるため、景気は変わっていない。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前と比較すると、通常12月には忙しくなるが、新型コロナウイルス新変異株が発生したため業界が低調である。年末でこれほど忙しくないことは珍しく、変化のない月である。
□	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	来客数の動き	・海外からの来訪が増えてきたと感じていたが、新型コロナウイルス新変異株によって、期待だけに終わりそうである。
□	学習塾（従業員）	来客数の動き	・問合せが変わらない。
□	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・年末年始の準備のため、人出も増え買物の購入も多くなっている。景気が上向いており、活気が出ている。
▲	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いており、消費の拡大や巣籠り需要の減退という現象が起こっている。消費行動が趣味やレジャー、外食等に向かっており、食品スーパーマーケットへの来店は減少している。
▲	スーパー（統括者）	来客数の動き	・来客数が減少しており、客単価維持となっているため、売上は下がる。
▲	家電量販店（店員）	販売量の動き	・テレビや冷蔵庫、洗濯機等の核になる商品の動きが悪い状況が続いている。
▲	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・前月後半から来客数が少なくなり、売上が落ちている。
▲	設計事務所（代表）	来客数の動き	・イベントの来客数が少ない。

	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・年末の繁忙期であるが、忘年会等を自粛する企業が多く、来客数が大きく減少している。
	×	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築業界では、材料や住宅設備設備等の価格上昇や品不足により、施工者にしわ寄せが来ている。また、生活面では、食料品や生活必需品の値上げが相次いでいるが、収入は増加していない。
企業 動向 関連	◎	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・多くの業種で、今月はかなり売上や利益、人手が変化し、良くなっている。
(九州)	○	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・11月後半から厳しかった外食部門の売上が徐々に戻っている。12月に入って新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることもあるが、本来の年度末にある状況に近づいている。この2年間で、初めて12月対計画で100%を達成しそうである。ただ、1月から発生し始めた鳥インフルエンザの影響で、入荷する予定の鶏が入らず受注対応できず、客に迷惑を掛けている状況である。
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上が前年より1割良くなっており、また、ふるさと納税も前年より2割上昇している。しかし、産地全体では、一時期よりは良くなっているが、そこまで上がっていない。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の輸出額が増加しており、その影響から受注量が上向きつつある。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体不足により、関連事業が好調を継続している。さらに、増産傾向である。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・取引先からの引き合いは依然強いものがある。ただし、材料費高騰や納期不定等今後に不安を残す内容が多い。
	○	通信業（経理担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているため、若干良くなっている。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店の売上は徐々に回復傾向にあり、スーパーマーケットやコンビニエンスストアの売上は持ち直している。また、新型コロナウイルスの影響で大幅に落ち込んだ旅行業を始めホテルや旅館、飲食店などでも次第に持ち直している。
	○	金融業（営業）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、多くの人が、自粛の反動から消費マインドが高い状況にある。
	○	金融業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が抑えられ、また、年末商戦や飲食業では忘年会等のイベントの再開により、売上が上がっている。サービス業や飲食業での客足は、新型コロナウイルス発生前の70%まで上がっている。しかし、新型コロナウイルス新変異株も発生し、予断を許さない状況にある。
	○	金融業（調査担当）	取引先の様子	・一部の製造業に対する供給制約の影響は残存するものの、人流の増加に伴い、飲食業を始めとする対人型サービス業での回復がみられる。そのため、景気は引き続き厳しい状態にあるが、3か月前と比べ良くなっている。
	○	金融業（調査担当）	取引先の様子	・各種キャンペーンが奏功し、人気観光地への客足には回復の兆しがみられ、宿泊施設の稼働状況も改善されている。また、大型商業施設の集客にも活気が戻りつつあり、2020年に中止された大型イベントの再開が増えている。一方、県内でも物流業界の人手不足は一段と深刻な状況になっている。
	○	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・新聞広告の発注量が増えつつある。
	○	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・新聞折込の受注量が前々年と比べまだ75%であるが、若干ではあるが戻りつつある。
	○	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注が増えており、企業の人材投資が復活しつつある。
	○	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・この数か月、販売促進用のダイレクトメールを送っており、若干ではあるが反応がある。

	○	その他サービス業 [物品リース] (職員)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数も減少しており、営業活動も活発化している。取引先の状況でも、抑制していた設備投資も徐々に検討されつつある。
	□	食品品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・原料の伝染病による品不足と品質の低下もあり、本来であれば上向きにあるべきところ、供給面と収益面を圧迫している。
	□	金属製品製造業 (事業統括)	受注量や販売量の動き	・再開案件の引き合いは旺盛で景気が上向いているが、一向に受注は伸びない。中小型の建築設備の工事自体止まっている状態である。発注延期の原因は、材料費高騰や資材不足、職人不足である。
	□	電気機械器具製造業 (経営者)	それ以外	・対応能力以上の受注が続いており、材料や部品等の品薄、値上がりが生産に悪影響を及ぼしている。
	□	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・多少生産は良くなってきたものの頭打ち感があり、12月ということもあり取引量は増えていない。
	□	輸送業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・第6波を警戒して、年末は予想ほど物量が伸びない。景気が良い方向に向かっていていると感じていただけに意外感が大きい。新型コロナウイルス発生前の水準までに戻るのには時間が掛かる。
	□	広告代理店 (役員)	受注量や販売量の動き	・売上や営業収益共に前年を僅かに上回る程度で停滞している。
	□	経営コンサルタント (社員)	受注量や販売量の動き	・原料や燃料の値上げにより、物価が上昇している。生活費の負担が増加し、特に高齢者の買い控えが激しくなっている。
	□	その他サービス業 [コンサルタント] (代表取締役)	取引先の様子	・市町村からの調査や設計等の委託業務が、本来は12月も追加で発注されるが、発注量が少なく、受注が厳しい。当初予算や9月補正予算の多くが、新型コロナウイルス対策関係の予算に回されていることが要因と考えられる。
	▲	繊維工業 (営業担当)	競争相手の様子	・発注量が少なく、まだ休みを取っている工場が多い。新型コロナウイルスの影響は、引き続き続いている。
	▲	建設業 (社員)	競争相手の様子	・同地区の同業者から、年末で官公庁の発注は期待できないと仕事状況の連絡が多くある。年明けから年度末にかけ期待はできず、新型コロナウイルスに対する予算が大きくなり、公共工事の予算は残っていないのが実情で、景気は悪くなっている。
	▲	輸送業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・例年12月は入出庫が増加するが、今年は半導体不足やコンテナ不足、海上運賃高騰により売りたいくても物が無い状況となり、年末という雰囲気ではなく、通常より少し荷動きがある程度になっている。トラックの手配も問題なくできる状況である。
	▲	輸送業 (従業員)	それ以外	・製造機械が半導体不足で納期が遅れていることに加え、原料が手に入らなくなっている。プロテイン原料や包装用のアルミも不足している。そのため、受注の引き合いは多いが、生産できない状況が、より深刻化している。
	×	—	—	—
雇用関連	◎	*	*	*
(九州)	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・企業からの社員欠員補充や産休交代、繁忙期増員等求人数の問合せが増えている。
	○	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・お歳暮用の注文数が、前年よりも増加している。また、商品の受注件数が良いため、新規契約をした企業もある。
	○	新聞社 [求人広告] (社員)	周辺企業の様子	・緊急事態宣言が解除され、新聞広告の量も回復基調にある。イベントの再開や宿泊施設の広告も戻りつつある。ただ、旅行広告では、Go To Travelキャンペーンの再開待ちで、前回の緊急事態宣言解除後の勢いはないが、潜在的な旅行に対する需要はあると予想される。自治体主導の旅行への補助という形で、新聞広告の出稿での出張もコロナ禍以前ほどではないが回復しつつあり、経済が動き出しているのを感じる。

○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染状況も落ち着きが見られることから、様々な活動が活発になっている。スポーツ大会やイベントも実施され、百貨店等への人出、また、飲食店の来客数も伸びている。
○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・パートやアルバイト中心であるが、新聞広告の求人も増えている。外国人労働者数減少の影響もあるが、期間工等、工場勤務の正社員の募集も見受けられる。
○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人、有効求人共に前年比の増加が続いており、また、有効求人倍率も前年比を上回る月が続いている。
○	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・飲食店やサービス業の事業主から、客足がかなり戻っているため、アルバイトや従業員を募集したいとの話をよく聞く。
○	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・内定状況は、前年より若干良く、前々年との比較では少し悪くなっている。現在も就職活動を行っている学生が一定数いるが、求人依頼件数も一定数あり、年間を通じた採用活動を行う企業も前年度と比較して増えている。また、2023年卒採用も業種によっては、増やす企業も出ており、求人状況は少し好転すると予想している。
□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・忘年会や新年会の実施はされても規模が小さく、受注は伸びていない。
□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・緊急事態宣言が解除され、年末年始需要に積極的な求人の動きがみられるかと予想していたが、期待はずれに終わり、今年の7月のような求人の動きはみられない。第6波を考え、現体制で乗り切ろうとしているのか、企業方針が読みきれない状況である。
□	民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・学生の内定数は、ここ2～3か月、前年と比べて若干であるが悪くなっており、コロナ禍の底からの上昇も一段落ち着いた状態である。また、就職活動の時期が早まっている影響で、前年よりも動きが悪くなっており、現状が良いのか悪いのか判断しづらくなっている。
▲	—	—	—
×	—	—	—